

けがのあとで見つけた仕事

6年 説明文 22番

名前

木下さんは、中学から高校まで、陸上部で長距離走に打ちこんでいました。毎朝、授業の前に走りこみをし、休みの日も、大会に向けて体力づくりを続けていました。目標は、全国大会に出場することでした。

高校二年生の秋、練習中に足首を大きくいためました。病院で検査を受けると、しばらく走ることができないと言われました。全国大会をめざしていた木下さんにとって、それは大きなショックでした。

治療のために通ったのが、町の接骨院でした。そこで木下さんの体を診てくれたのは、柔道整復師の先生でした。先生は、足首の様子を見て、指でふれて痛みの場所を確かめ、テーピングで固定したあと、「あせらず、少しずつ動かしていこう」と声をかけながら、運動のしかたを教えてくださいました。

通院を重ねるうちに、木下さんは、けがが少しずつ回復していくことよりも、先生の仕事のやり方に興味を持つようになりました。同じけがでも、痛みの場所や動かし方によって、治療の進め方が変わること、先生が説明してくれたからです。

全国大会には、けがのため出場できませんでした。けれど木下さんは、高校を卒業したあと、柔道整復師を養成する専門学校に進みました。解剖学や生理学を学び、けがをした人の体にふれて診断する練習を、くり返し行いました。

今、木下さんは、接骨院で働いています。スポーツでけがをした人が来ると、症状を聞き、患部を観察し、実際にふれて確かめてから、治療の方法を決めます。長距離走をしていたころの経験が、選手の気持ちを想像する助けになっていると、木下さんは感じています。

わたしは、目指していた道が閉ざされても、そこで得たものが、次の道につながることもあるのだと感じました。

この話はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません

(1) 木下さんが、高校二年生の秋に経験した出来事を、文章の言葉を使って書きましょう。

(2) 木下さんが、柔道整復師の仕事に興味を持つようになったきっかけはどれですか。最も適切なものを一つ選びましょう。ア 痛みの場所や動かし方で治療の進め方が変わると、先生が説明してくれたこと
イ 陸上部の仲間が、先に治療の仕事を選んでしたこと
ウ 全国大会で、柔道整復師と出会ったこと
エ 先生に、大会で優勝する方法を教わったこと

(3) 接骨院の先生が、木下さんにかけた言葉を、文章からそのまま書きぬきましょう。

(4) 次のうち、筆者の考え(意見)が述べられている一文を一つ選びましょう。
ア 先生は、足首の様子を見て、痛みの場所を確かめました。
イ わたしは、目指していた道が閉ざされても、そこで得たものが、次の道につながることもあるのだと感じました。
ウ 木下さんは、高校を卒業したあと、専門学校に進みました。
エ 木下さんは、中学から高校まで、陸上部で長距離走に打ちこんでいました。

(5) 木下さんは、今、接骨院で働くときに、どのようなことを大切にしていますか。四十字以上六十字以内で書きましょう。

(6) あなたが今がんばっていることを、もし続けられなくなったら、身につけたものは次にどう生かせそうですか。書きましょう。

書き方のヒント

「わたしは、もしを続けられなくなったら、そこで身につけたを、次はに生かせそう思う。」のように書いてみよう。
今、がんばっていることを一つ思いうかべてから書く。

けがのあとで見つけた仕事

解答

6年 説明文 22番

名前

木下さんは、中学から高校まで、陸上部で長距離走に打ちこんでいました。毎朝、授業の前に走りこみをし、休みの日も、大会に向けて体力づくりを続けていました。目標は、全国大会に出場することでした。

高校二年生の秋、練習中に足首を大きくいためました。病院で検査を受けると、しばらく走ることができないと言われました。全国大会をめざしていた木下さんにとって、それは大きなショックでした。

治療のために通ったのが、町の接骨院でした。そこで木下さんの体を診てくれたのは、柔道整復師の先生でした。先生は、足首の様子を見て、指でふれて痛みの場所を確かめ、テーピングで固定したあと、「あせらず、少しずつ動かしていこう」と声をかけながら、運動のしかたを教えてくださいました。

通院を重ねるうちに、木下さんは、けがが少しずつ回復していくことよりも、先生の仕事のやり方に興味を持つようになりました。同じけがでも、痛みの場所や動かし方によって、治療の進め方が変わること、先生が説明してくれたからです。

全国大会には、けがのため出場できませんでした。けれど木下さんは、高校を卒業したあと、柔道整復師を養成する専門学校に進みました。解剖学や生理学を学び、けがをした人の体にふれて診断する練習を、くり返し行いました。

今、木下さんは、接骨院で働いています。スポーツでけがをした人が来ると、症状を聞き、患部を観察し、実際にふれて確かめてから、治療の方法を決めます。長距離走をしていたころの経験が、選手の気持ちを想像する助けになっていると、木下さんは感じています。

わたしは、目指していた道が閉ざされても、そこで得たものが、次の道につながることもあるのだと感じました。

この話はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません

(1) 木下さんが、高校二年生の秋に経験した出来事を、文章の言葉を使って書きましょう。

(例) 練習中に足首を大きくいためて、しばらく走ることができなくなったこと。

(2) 木下さんが、柔道整復師の仕事に興味を持つようになったきっかけはどれですか。最も適切なものを一つ選びましょう。
ア 痛みの場所や動かし方で治療の進め方が変わると、先生が説明してくれたこと

イ 陸上部の仲間が、先に治療の仕事を選んでしたこと
ウ 全国大会で、柔道整復師と出会ったこと

エ 先生に、大会で優勝する方法を教わったこと

(3) 接骨院の先生が、木下さんにかけた言葉を、文章からそのまま書きぬきましょう。

あせらず、少しずつ動かしていこう

(4) 次のうち、筆者の考え(意見)が述べられている一文を一つ選びましょう。

ア 先生は、足首の様子を見て、痛みの場所を確かめました。
イ わたしは、目指していた道が閉ざされても、そこで得たものが、次の道につながることもあるのだと感じました。

ウ 木下さんは、高校を卒業したあと、専門学校に進みました。

エ 木下さんは、中学から高校まで、陸上部で長距離走に打ちこんでいました。

(5) 木下さんは、今、接骨院で働くときに、どのようなことを大切にしていますか。四十字以上六十字以内で書きましょう。

(例) 症状を聞き、患部を観察し、実際にふれて確かめてから治療の方法を決めること、選手の気持ちを想像することを大切にしている。

(6) あなたが今がんばっていることを、もし続けられなくなったらしたら、身につけたものは次にどう生かせそうですか。書きましょう。

(例) わたしは、今、サッカーのシュート練習をがんばっています。もしけがでサッカーを続けられなくなっても、練習をこつこつ積み重ねてきたことは、勉強や他のことにも生かせると思います。木下さんのように、身につけたものは、形を変えて役に立つのかもしれない。

書き方のヒント

「わたしは、もしを続けられなくなったら、そこで身につけたを、次はに生かせると思う。」のように書いてみよう。

今、がんばっていることを一つ思いうかべてから書く。

解答・解説 けがのあとで見つけた仕事（6年・説明文）

この話はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません。School Stock の書き下ろしで、実際にあった取材ではありません。仕事の中身は、厚生労働省の職業情報提供サイト（job tag）などの公的な資料で確かめてから書いています。子どもに紹介するときは、実在の人の話ではないことを一言そえてください。

問1 （例）練習中に足首を大きくいためて、しばらく走ることができなくなったこと。

第二段落に書かれています。「足首をいためた」とことと「走れなくなった」ことの両方が書けていれば正かいです。

問2 ア

第四段落に「同じけがでも、痛みの場所や動かし方によって、治療の進め方が変わる」とあります。

問3 あせらず、少しずつ動かしていこう

第三段落の、先生の言葉をそのまま書きぬきます。

問4 イ

文末が「～と感じました」となっており、筆者の意見です。ア・ウ・エは木下さんについての事実です。

問5 （例）症状を聞き、患部を観察し、実際にふれて確かめてから治療の方法を決めること、選手の気持ちを想像することを大切にしている。

第六段落がもとになります。「治療の進め方」と「選手の気持ちを想像すること」の二点が入っていれば正かいです。四十～六十字を目安にします。

問6 （例）わたしは、今、サッカーのシュート練習をがんばっています。もしけがでサッカーを続けられなくなっても、練習をこつこつ積み重ねてきたことは、勉強や他のことにも生かせると思います。木下さんのように、身につけたものは、形を変えて役に立つのかもしれない。

答えは自由です。今ががんばっていることを具体的に挙げ、その先の生かし方を書けているかを見ます。無理に「けが」の話にしなくても、続けてきたことの価値が書けていれば正かいです。